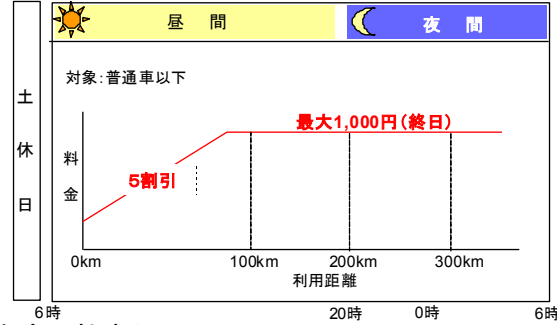


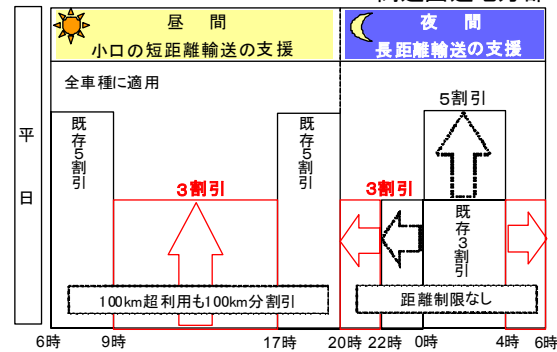
# 高速道路料金引下げについて

「生活対策」において、地域の活性化(観光振興)や物流効率化の観点から、当面22年度までの措置として、高速道路料金の引下げを今年3月から順次導入。  
平成20年度補正予算: 5000億円

## ◆ 地域の活性化(観光振興) 高速国道地方部



## ◆ 物流の効率化 高速国道地方部



## 経済効果(試算)

- ◆ 直接効果
  - ・観光消費額の増加: 約7,300億円(約2年間)
  - ・物流コストの縮減: 約2,000億円(約2年間)
- ◆ 経済波及効果: 約1.7兆円(約2年間)

※ 観光消費額は、高速道路の旅行頻度に関する意向調査等をもとに算出  
 ※ 物流コスト縮減額は、一般道路から高速道路への利用転換による人件費、燃料費等の縮減を算出  
 ※ 経済波及効果は、産業連関表等を用いて算出

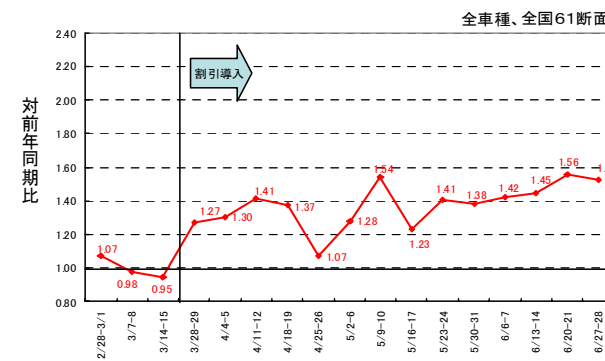
## CO2排出量の増減(試算)

- ◆ 平日割引
  - ・一般道から高速道路への転換: ▲約21万t/年 (高速道路への転換交通量の速度上昇による減少分)
- ◆ 休日割引
  - ・観光需要の増加: +約20万t/年 (高速道路の新規需要増による増加分)

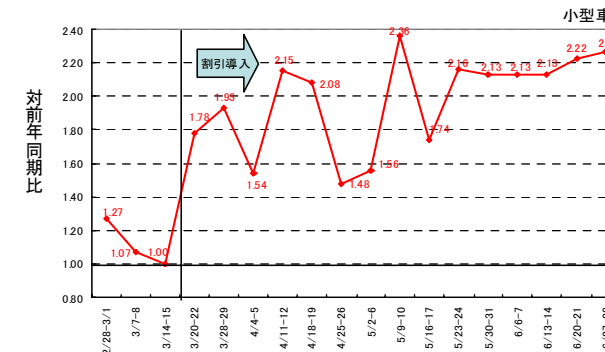
※上記とは別に、民営化の際に導入した割引やETC利用率向上で、▲約40万t/年がある。

◆ 割引導入後、休日の交通量は、地方部の高速道路では約1.4倍、本四高速では約2倍に増加。

## ◆ 高速道路(地方部)の休日交通量の変化

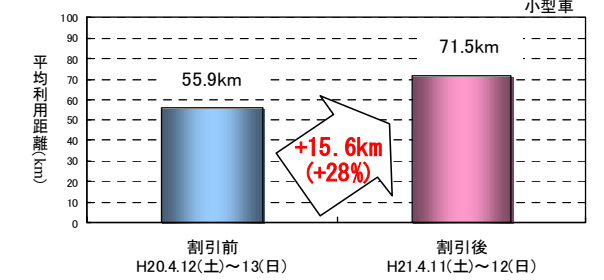


## ◆ 本四高速(3ルート合計)の休日交通量の変化

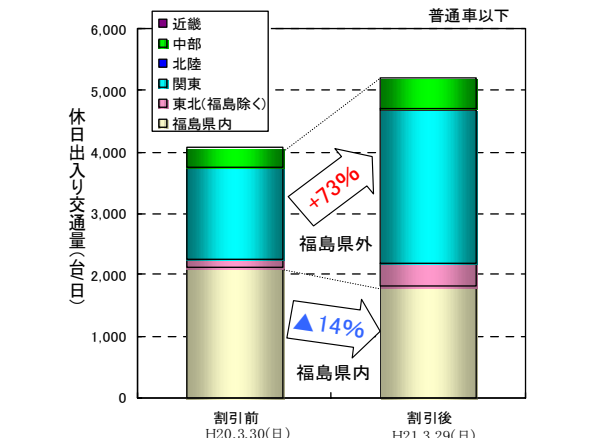


◆ 平均利用距離が約3割程度伸び、各地域のICでは、県外からの利用者が大幅に増加。

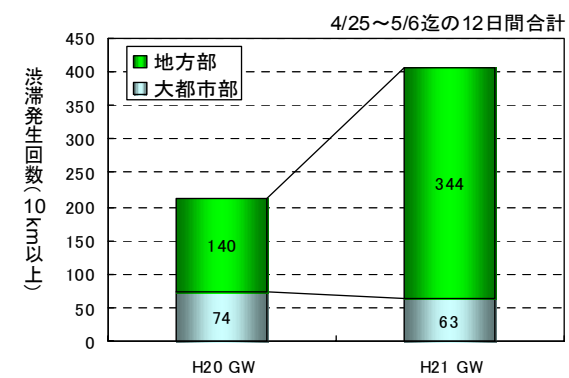
## ◆ 平均利用距離の変化



## ◆ 磐越道 猪苗代磐梯高原ICの利用変化

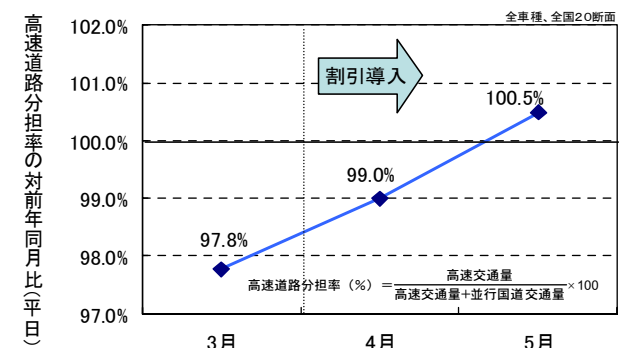


今年のゴールデンウィークは、大都市部で渋滞が減少する一方で、地方部では、利用距離が伸びたこともあり、昨年の約2倍の渋滞が発生。

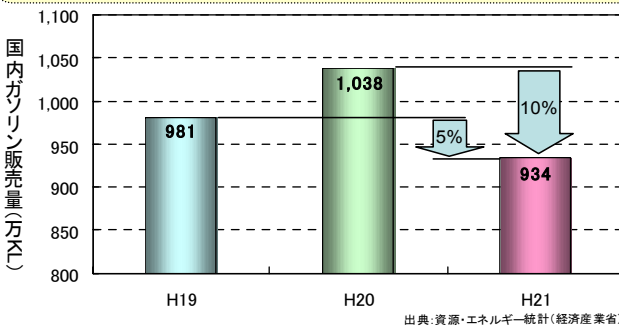


- 今後、交通集中により多数の渋滞発生が見込まれるお盆期間の交通の分散を図るため、乗用車、物流車両等の高速道路利用状況を踏まえた割引を導入する。
- また、物流事業者等からの意見を踏まえ、休憩施設における大型車スペースの確保を強化するとともに、GWに新たに渋滞が発生した本線箇所にも対策を講じる。

平日割引の導入後、高速道路の分担率は徐々に増加傾向が現れ、2ヶ月で約3ポイント回復。

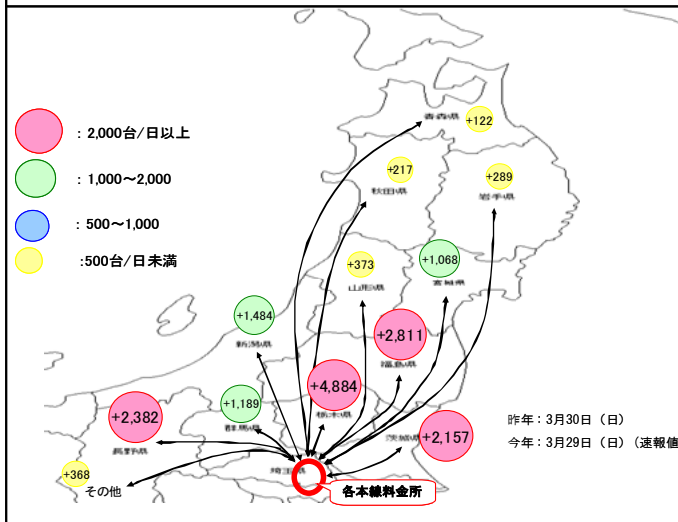


今年4~5月の国内ガソリン販売量は、H19年、H20年と比較して減少しており、自動車全体としてCO2排出量の増加傾向は見られない。

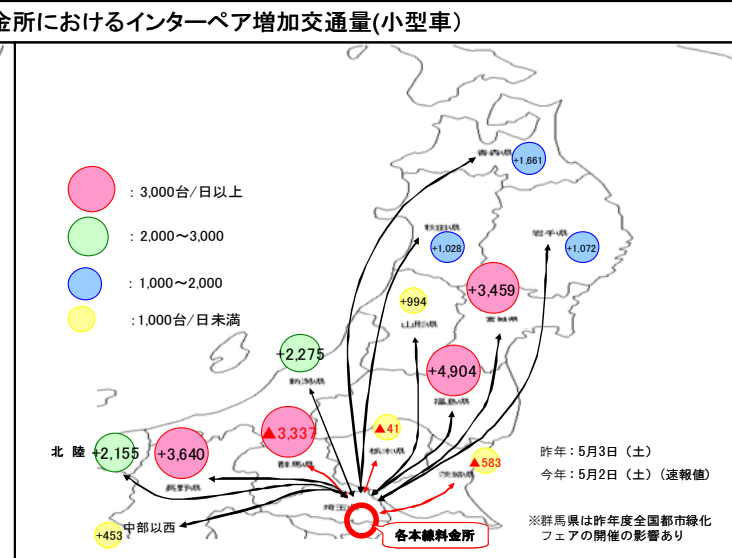


## 通常の休日

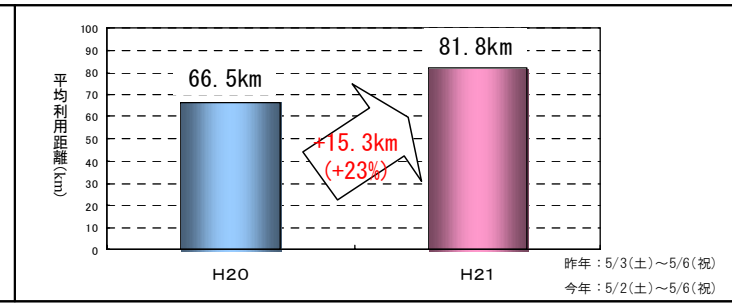
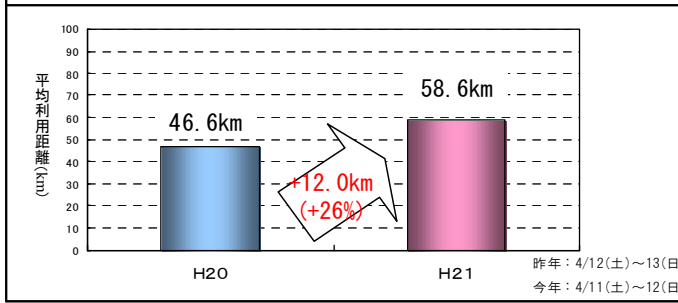
● 関越道(新座本線)・東北道(浦和本線)・常磐道(三郷本線)料金所におけるインターペア増加交通量(小型車)



## ゴールデンウィーク



## ● 東日本管内の高速道路平均利用距離(小型車)



# 高速道路料金引下げによる観光施設等・宿泊施設への影響について

## 観光施設等

観光施設等の入場者数は、利用者の増加と減少が混在するまだら模様となっている。利用者の変動には、天候、新型インフルエンザ等の影響も認められるが、これらを除けば、概して増加の効果があったと推定される。

### ◆調査結果

[平成21年]

月	調査回数	増減の内訳			
		合計	増	減	不明・影響なし
3月	2週末	94	41	1	52
4月	4週末	188	80	37	71
5月	4週末	188	88	56	44
6月	3週末	141	66	30	45

運輸局等	都道府県	3月		4月				5月			6月			
		3/21.22	3/28.29	4/4.5	4/11.12	4/18.19	4/25.26	GW 5/2~10	5/16.17	5/23.24	5/30.31	6/6.7	6/13.14	6/20.21
北海道	北海道													
東北	青森県													
	岩手県													
	宮城県													
	秋田県													
	山形県													
関東	福島県													
	茨城県													
	栃木県													
	群馬県													
	千葉県													
	埼玉県													
	東京都													
	神奈川県													
	山梨県													
	北陸信越	新潟県												
中部	長野県													
	富山県													
	石川県													
	岐阜県													
	静岡県													
近畿	愛知県													
	三重県													
	福井県													
	大阪府													
	京都府													
中国	奈良県													
	滋賀県													
	和歌山県													
	兵庫県													
	広島県													
四国	徳島県													
	香川県													
	愛媛県													
	高知県													
	福岡県													
九州	佐賀県													
	長崎県													
	熊本県													
	大分県													
	宮崎県													
沖縄	沖縄県													

- …入場者数等が増加したと回答した施設や割引効果があったと回答した施設が多かった地域
- …入場者数等が減少したと回答した施設が多かった地域
- …不明又は特段影響がなかったと回答した施設が多かった地域
- …悪天候

### ◆調査概要

- ・調査日：高速道路料金引下げ後の土・日の各週及びゴールデンウィーク期間（5/2～5/10）
- ・調査対象：協力が得られた観光協会や観光施設等（各都道府県1～3ヶ所、計74ヶ所）
- ・調査方法：昨年同時期又は高速道路料金引下げ前の基準日と比較した入場者数等の増減を聞き取り調査

## 宿泊施設

景気や新型インフルエンザの影響等、宿泊需要の減少要因が認められる状況の中、

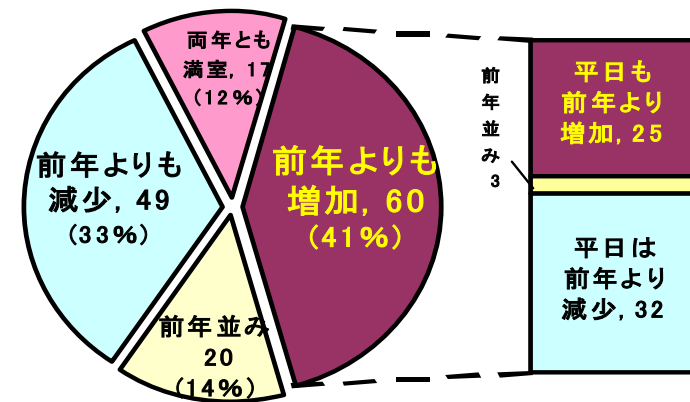
- ・土曜日の宿泊については「前年比増」及び「満室施設」が半数以上
- ・日曜日の宿泊については「前年比減」施設が半数以下に留まっている。

現下の経済状況下では、高速道路料金引下げによる観光需要の下支え効果もあったと推定される。

### ◆調査結果

〔図1〕土曜日における宿泊者数の状況

土曜日における宿泊者数の状況 対前年比較



※調査回答のあった162施設のうち、前年比較データの提供のあった146施設の内訳

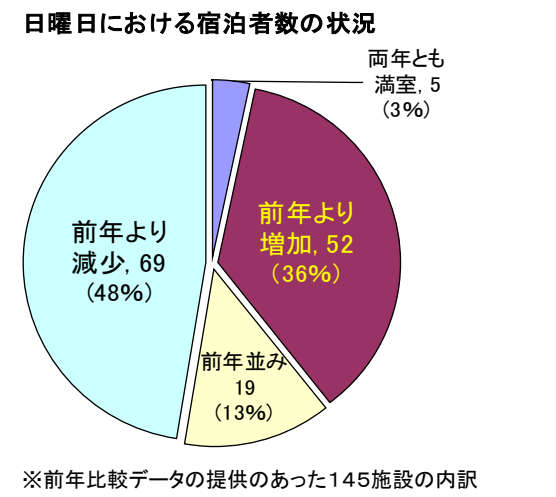
◎土曜日の宿泊が増加し、平日も増加した施設が所在する地域の例

- 宮城県…作並温泉・鳴子温泉他
  - 石川県…和倉温泉・金沢市内
  - 三重県…鳥羽市内・四日市市内
  - 広島県…広島市内・福山市内
  - 大分県…日田温泉・別府温泉
- ※都道府県別分布における上位5県を例示

◎土曜日の宿泊が増加したが、平日減少した施設が所在する地域の例

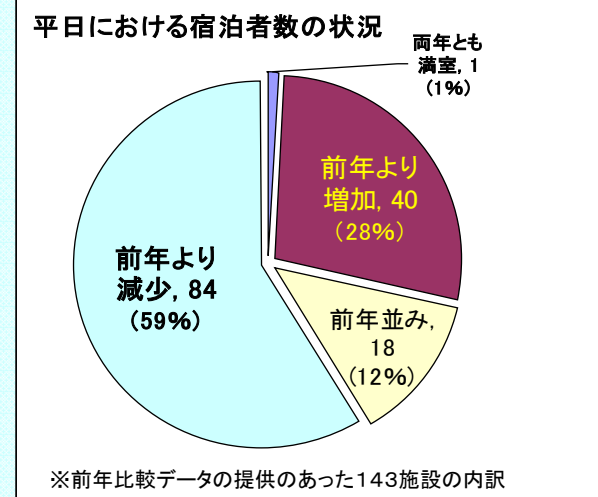
- 福島県…会津若松市内・福島市内他
  - 茨城県…水戸市内・神栖市内他
  - 岐阜県…高山市内・多治見市内他
  - 島根県…はわい温泉・宍道湖温泉
  - 大分県…日田温泉・別府温泉
- ※都道府県別分布における上位5県を例示

〔図2〕日曜日における宿泊者数の状況



※前年比較データの提供のあった145施設の内訳

〔図3〕平日における宿泊者数の状況



※前年比較データの提供のあった143施設の内訳

### ◆調査概要

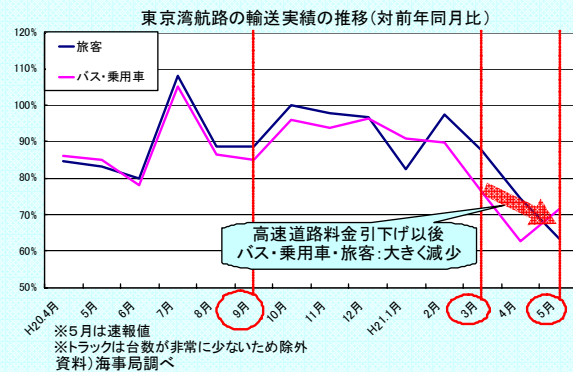
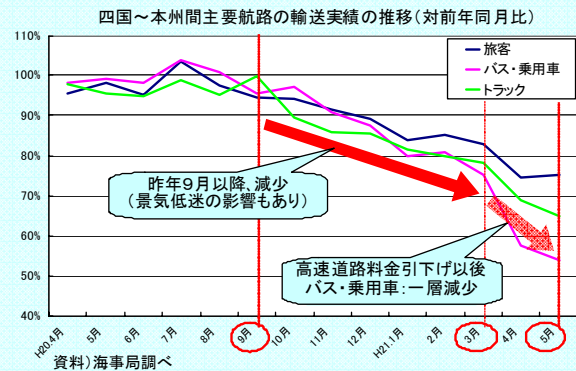
- ・調査日：平成21年6月13日（土）～6月21日（日）
- ・調査対象：全国162施設
- ・調査方法：土曜、日曜、平日別の宿泊客及び日帰り利用客の動向（稼働率・宿泊者数・対前年同期比等）等についてアンケートにより調査

# 高速道路料金引下げによる輸送機関への影響について

## フェリー（旅客、乗用車、トラック）

### 本四関連航路・東京湾航路

- ・昨年秋の高速道路料金引下げ以降、輸送量減少。3月の高速道路料金引下げ以降、輸送量は一層大きく減少（参考：平日と比較すると土日祝日の減少幅がはるかに大きい）
- ・景気低迷の影響等もあり、どの程度が高速道路料金引下げによるものかは判断困難

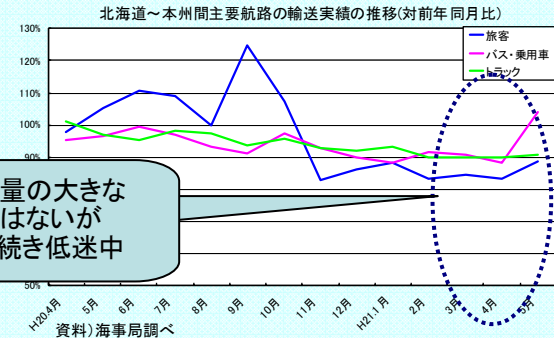
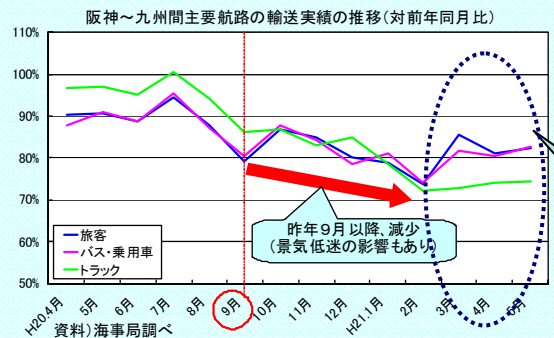


参考)3/20～4/24のバス・乗用車航走台数前年同月比  
(本四関連航路) 平日 77.4%、土日祝日 53.4%

(東京湾航路) 平日 89.8%、土日祝日 75.8%

### 阪神九州間航路・北海道本州間航路

- ・昨年秋の高速道路料金引下げ以降、輸送量減少。3月の高速道路料金引下げ以降、更に大きな輸送量の減少はないが引き続き低迷中
- ・運賃割引等を行っている会社も多く、経営に対しては大きな影響を与えている可能性
- ・北海道本州間航路：長距離航路は輸送量が減少しているなど局所的に影響が出ているとの指摘あり

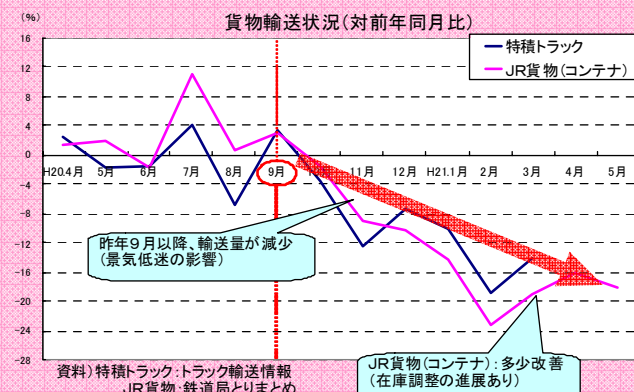


輸送量の大きな変動はないが引き続き低迷中

## 物流(トラック、JR貨物)

- ・昨年9月以降、輸送量減少(景気後退等の影響か)
- ・トラック事業者の声：  
『貨物の到着遅延』  
『SA等休憩施設の混雑による利用困難』 など

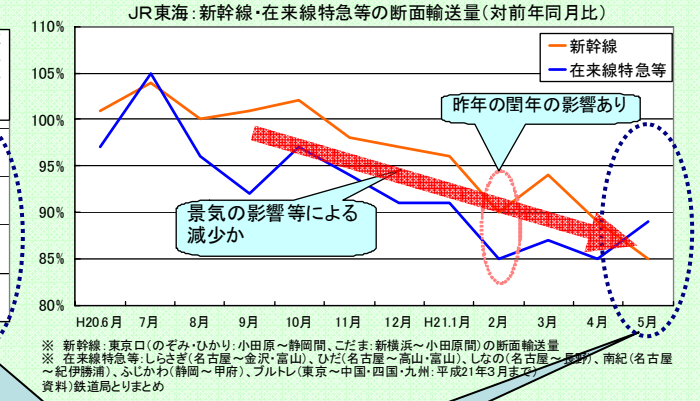
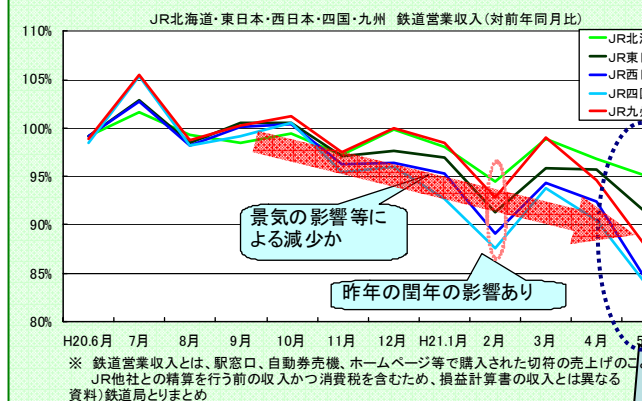
※トラックの100km制限が7月8日から緩和



## 鉄道（旅客）

### JR各社の収入動向

- ・JR各社の収入は減少傾向であるが、景気低迷や新型インフルエンザの影響等もあり、高速道路料金引下げによる影響の正確な把握は困難



新型インフルエンザの影響もあるか

### JR各社のコメント (いずれも確たるデータに基づくものではないとのこと)

#### 影響のあった箇所

- ・距離帯が200km前後の区間
- ・車で3時間圏内の区間
- ・高速道路と並行している在来線の一部

※減少要因としては、景気低迷や新型インフルエンザの影響等も大きい

## 高速バス

- ・利用者数：減少と増加が混在  
(減少は景気低迷等、増加は輸送力増強等の影響か)
- ・バス事業者の声：  
『SA等休憩施設の混雑による利用困難』 など
- ・定時運行が困難となった路線あり  
(高速道路渋滞による)

※高速バスに対する割引は7月4日から開始

### ゴールデンウィーク期間の輸送動向 【速報値】

調査対象地域	輸送人員(対前年比)	通常所要時間	遅延による最大運行時間※
関東(6事業者)	96.9%	5時間34分	9時間11分
北陸・中部・近畿(4事業者)	96.3%	7時間16分	12時間45分
四国・九州(4事業者)	89.5%	7時間18分	12時間13分
計・平均	93.9%	6時間34分	11時間08分

※遅延による最大運行時間：各事業者の保有する路線毎の最大遅延時間を路線数で割って算出。「計・平均」は、当該運行時間の合計を事業者数で割って算出。

備考)4月29日～5月6日の集計(一部、4月23、24日～)  
資料)日本バス協会調べ